

令和5年度 浜松市国語科研究部2ブロック（3、4部会）

第1回研修会報告

1 日 時 5月24日（水） 15:00～16:30

2 場 所 浜松市立中郡中学校 体育館

3 内 容

（1）顧問校長挨拶 浜松市立中郡中学校長 山下 哲広 先生

- ・言葉の担い手としての言語感覚を磨く 漢字の成り立ち
- ・今年度の重点課題「単元の中に子供たちが主体的に学びを調整できる場面を設定すること」について調整とは、学びに向かう力、人間性の評価「粘り強い取組」と関わりがあるのではないか。児童生徒による自己評価を学びに向かう力の評価に直結させるのではなく、子供に内面化させて「調整力」の育成につなげることが大切。また、粘り強い取組をしている児童生徒の具体的な姿を思い描き、そのような取組ができる単元構想を考えていくことが重要である。

（2）研究テーマ説明

- ・研究テーマ「言葉の力」を育てる魅力的な単元の創造
- ・今年度重点課題
視点② 単元の中に、子供たちが主体的に学びを調整できる場面を設定すること
- ・年間研修計画提案
 - ・第1回（5月24日）
 - ・第2回（8月1日） 浜松市総合産業展示館にて 終日
 - ・第3回（10月25日） 浜松市立蒲小学校にて 授業実践参観

（3）グループワーク 「主体的に学びを調整できる場面を取り入れた単元の設定」

学年ごとのグループに分かれ、学びを調整できる場面をどこでどのように取り入れることができるか話し合った。

- ・小学校5年生「日常を十七音で」
言葉をよりすぐって俳句を作る単元。季語探しに夢中になり、季語から俳句を作ろうとする児童が多いと予想するが、生活の中で気付いたことや驚いたことを俳句にして伝えるという単元のねらいを達成するため、気持ちを的確に表す季語を粘り強く探すように単元を組みたい。
 - ・小学校6年生「わたしたちにできること」
具体的な事実や考えをもとに、提案する文章を書く単元。提案の意図や内容を読み手に分かりやすく伝えるために、グループで話し合っ内容や書き方を粘り強く検討させたい。そのために、分かりやすい文章構成とはどのようなものか、明確に提示したい。
 - ・中学校1年生
年々、1年生が幼くなっているように感じる。話は聞いているが、主体的に学んでいるか疑問が残るときがある。粘り強い取組を取り入れた単元作りのための土台作りの段階である。
 - ・中学校3年生
義務教育最後の出口として、話す・聞く、書く、読むこと等を総合的に網羅した単元作りに取り組みたい。
- （4）顧問校長挨拶 浜松市立江南中学校長 御手洗 実 先生
- ・子供たちがやりたいことから単元構想を立てる授業実践について
教師の適切な助言を基に子供同士で交流させることで、新たな考えに気付かせる。
 - ・自己の調勢力が主体的にはたらく単元づくり方について
インプット（読む、聞く）する活動で学んだスキルや知識などを使って、アウトプット（話す、書く）する活動で終わる単元を構想するとよい。